

大腿膝窩動脈病変を有する閉塞性動脈硬化症における遠位側小血管の予測因子

¹独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院、²独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院

倉田 直哉¹、福岡 博¹、小川 雅史¹、久保田 慎一¹、樫尾 至誠¹、大山 浩樹¹、田中 弘晃¹、弓削 聡¹、田中 柊次¹、千花 友¹、飯田 修²、岡本 慎²、石原 隆行²、南都 清範²、上松 正朗²

【背景】末梢動脈疾患に合併した浅大腿動脈(SFA)病変に対して末梢血管内治療(EVT)は高い安全性と有効性のため広く用いられている。EVT後の再狭窄規定因子の一つに小血管であることが報告されている。しかしながら、小血管を予測する背景因子については十分に検討されていない。今回、症候性末梢動脈疾患に合併したSFA病変において、小血管病変を合併する背景因子を検討した。【方法】2012年7月から2016年4月までにSFA病変に対して血管内超音波を用いてEVTを施行した新規連続347人、433病変を対象とした。小血管を血管内超音波での病変遠位側の血管径6mm以下と定義し、多変量解析にて評価した。【結果】遠位側が小血管であったのは122病変28%であった。多変量解析にて、小血管となる因子は性差(男性)[OR: 0.50, p=0.004]、閉塞病変[OR: 2.02, p=0.003]、人工透析[OR: 0.52, p=0.012]、BMI[OR: 0.93, p=0.013]であった。【結語】SFA病変部の遠位側の小血管予測因子は性差、閉塞病変、人工透析、BMIであった。

	単変量解析 OR(95%CI)	P値	多変量解析 OR(95%CI)	P値
年齢	0.98(0.96-1.01)	0.163		
男性	0.49(0.32-0.76)	0.001	0.50(0.32-0.80)	0.004
閉塞病変	2.10(1.37-3.22)	0.001	2.02(1.27-3.19)	0.003
病変長	1.00(0.99-1.00)	0.156		
重症虚血肢	1.52(0.98-2.35)	0.064		
TASC A vs B	1.69(0.92-3.08)	0.090		
TASC A vs C	1.40(0.77-2.53)	0.274		
TASC A vs D	1.39(0.76-2.55)	0.292		
膝下動脈不良	0.76(0.50-1.16)	0.205		
歩行不能	1.99(1.10-3.59)	0.023	1.86(0.98-3.51)	0.057
糖尿病	0.87(0.57-1.32)	0.514		
高血圧	0.90(0.58-1.39)	0.627		
脂質異常症	0.98(0.64-1.51)	0.941		
人工透析	0.47(0.29-0.77)	0.002	0.52(0.31-0.87)	0.012
BMI	0.92(0.87-0.98)	0.008	0.93(0.87-0.98)	0.013

図1. 小血管(6mm以下)予測因子